

# 平成17年版国民生活白書の刊行に当たって



経済財政政策担当大臣

竹中平蔵

国民生活白書は、生活の実態や社会の変化について、人々の意識面も含めて多面的に分析してきました。近年では、「家族」、「若年」、「地域」などの視点から暮らしの現状や課題を考察しています。

48回目の刊行となる今回の白書は、子育てを担う世代の意識と生活について取り上げました。子育て支援については平成13年度白書でも分析しましたが、その後も出生率は低下を続け、少子化や子育てに対する関心はこれまでになく高まっています。

子育て世代の意識は、いずれは結婚して子どもを持ちたいと考えている人が多く、また理想の子ども数も2.5人程度と、出生率が低下し続けたここ20年以上大きく変化していません。本書では、出生率低下の要因として、結婚や子育ての経済的・心理的な負担感が高まっていることをあげています。

子育て世代の意欲を活かし希望を実現するためには、そうした負担感を社会全体で取り除いていくことが重要です。同時に、子育てが楽しく充実感が得られるものであることを子育て世代に積極的に伝えていくことも必要です。そのためには、少子化の流れを変え若年世代の自立を促す構造改革を着実に実施し、将来に希望が持てる社会を実現していくことが最も有効な方法と考えます。

本白書が、社会全体での子育てへの取組を考える際の参考となれば幸いです。

平成17年 8月12日

#### 「暮らしと社会」シリーズについて

内閣府は、人々の暮らしと社会に結びついた「青少年、高齢社会、障害者、国民生活、男女共同参画」といった施策を一体的に推進しています。このようなテーマを扱う白書については、平成15年度より「暮らしと社会」シリーズとしてシリーズ化し、今年度は「子育てを家族や地域、企業等で幅広く支え合おう」というシリーズ白書共通メッセージを定め、問題意識の共有や相互連携の強化を図ることを目指しております。